

2008年(平成20年)5月9日(金曜日)

東京医科歯科大学の玉村啓和教授と京都大学の藤井信孝教授らは、がんの転移を抑制するペプチドを作ることに成功した。乳がんや白血病など二十―三十種類のがんで見つかっているペプチドをもとに人工合成した。免疫不全のマウスを使った実験で、抑制効果を確認した。さらに最適な構造を追究する。

様々な種類のがんで存在  
CXCR4の濃度の多い場  
所が確認されているペプチド  
をもとに、より効果的な構  
造を人工合成して、ペプチ  
カギとみられている。

## がん転移抑えるペプチド

ド「T140」を作った。  
遺伝子操作で免疫不全に  
T140は細胞表面など  
にあるたんぱく質「CXCR4」  
くしたマウスの尾に、乳が  
んを注射して肺への転移を

### 東京医科歯科大と京大 人工合成に成功

調べた。マウスにポンプを  
埋め込み、数時間かけてペ  
プチドを投与した。未投与  
だとがんが肺全体の約四〇  
%を占めたが、投与すると  
二五%に抑えられた。  
T140のもととなった  
ペプチドは関節リウマチで  
も確認されている。今後は  
関節リウマチへの治療効果  
などもマウスの実験で確か  
める。